

# 医療九条の会・北海道 会報 第20号

発行：2012年12月 発行責任者：猫塚 義夫



2012年がまもなく幕を閉じようとしています。総選挙の結果から、来年はまさに憲法を守り活かそうとする国民の側から、これまで以上の積極的なとりくみが求められていると思います。当会もその一員として微力ながら貢献できればと考えております。

その手始めとして、第7回総会と記念講演会を開催いたします。ご案内をさせていただきますので、多くの方々のご出席方よろしく願いいたします。

## 第7回総会 記念講演会のご案内

### 記念講演 「パレスチナ医療支援」報告

北海道パレスチナ医療奉仕団 (団長 猫塚義夫)

11月20日から約1ヶ月間にわたって、パレスチナで行ってきた医療支援および占領下の暮らしや現地のみなさんの思いに直接触れた体験が報告されます。(猫塚団長の現地レポートは2ページ以降に掲載しています)

日時	2013年2月16日(土)
	15:00～ 記念講演会
	17:00～ 第7回総会
会場	きょうさいサロン (札幌市中央区北4西1 共済ビル)
参加費	500円(記念講演会)

\*\* もくじ \*\*\*\*\*

- 第7回総会・記念講演会のご案内 ..... 1
- パレスチナ医療支援・現地レポート (猫塚義夫) ..... 2
- 「チェルノブイリ、福島、原発労働者」(松崎道幸 10/25講演会資料より) ..... 8
- 会員のみなさんへのお知らせ ..... 12

\*\*\*\*\*

# パレスチナ医療支援・現地レポート

猫塚 義夫 北海道パレスチナ医療奉仕団団長  
勤医協札幌病院整形外科 当会幹事長

(ご本人がフェイスブックで公開されている現地レポートをまとめたものです・・編集部)

## 11月19日

かねてから関わってきたパレスチナ支援組織「北海道パレスチナ医療奉仕団」の仲間と共に、明日20日から、ヨルダン川西岸・ジェリコ市の郊外にあるアクバドジャベル難民キャンプ診療所に出かけます。

応援してくれる、友人や先輩、職場の仲間の皆さんや家族に心から感謝です。

現在、パレスチナ・イスラエル間の緊張が高まっていますが、難民の方々への医療提供を第一として、全員で無事帰国することを目指します。

できるだけ毎日報告するように致します。よろしくお願いいたします。

帰国は、12月24日の予定です。



## 11月22日

本日、難民キャンプ診療所でこれからの支援活動を打ち合わせました。その後、所用でエルサレムへ……。その中心地で、パレスチナの女性がイスラエル兵にナイフで襲いかかる事件に遭遇しました。イスラエルは、軍隊を出し、集まるパレスチナ群衆を騎馬兵で威嚇し追い散らそうとしていました。ガザ攻撃がされるなかで、「休戦協定」がなされ、ガザの住民には「朗報」ですが、この緊張状態が西岸全体を覆っているかのようです。

安全第一を心において支援活動を続けます!!!



## 11月23日

今日は金曜日で、イスラムの休日です。平和デモのあるビリン村へ。車椅子のラニーさんを訪問、リハビリが進んで元気でした。一緒に、分離壁に行進しました。彼のエネルギーに感心しました。



## 11月24日

24 日金曜日はビリン村の国際平和デモに参加。パレスチナの若者が「free ,free, Palestine」と叫び、分離壁のむこうからイスラエル兵士が催涙弾を撃ち込んで来る。――イスラエルからの差別と弾圧に心が痛みます。

### 11月25日

明日の ABJ 診療所での講演のポスター作りに、モアイヤット君がアラビア語訳を入れてくれました。彼は ST を目指す学生です。兄で OT のモハンヤットさんも手伝ってくれました。感謝です！今日は、テルアビブへ視察に出ます。



### 11月26日

今日から本格的に診療支援を開始。特に腰痛・関節痛など整形外科関係の疾患の患者さんが来院。肥満の方が多く 20 名以上を診察。腰椎や膝関節に無理がかかっているようです。検査指示や薬を処方するとそれを持参して大きな病院を受診すると無料で診療されるとのことでした。我々も少しは役に立ったかも。最後に来た下腿挫傷の少年には、「湿潤療法」を実施。それへの理解が始まりつつあります。



### 11月27日

本日もアクバドジャベル RC 診療所で、患者さんの診察。30 人を超える患者さんにアラビア語通訳を交えての診察です。時間はかかりますが、難民患者さんの要望は強く、ジュベ所長、サリム先生からの期待を強く感じています。糖尿病の方のフットケアについて来週から集中的に診る予定です。一方今日も足部化膿の患者さんが受診、清水 PT とともに「湿潤療法」を実施、来週に診察することにしました。ジュベ先生との議論で、巡回診療でも「湿潤療法」の普及を試行する予定です。両先生は、午後から他の難民キャンプ診療所での仕事に走ります。頭の下がる思いです。来週は、そこへも出かける予定です。



### 11月29日

RC 診療所のドアには[武器禁止]のポスターが貼られています。やはり難民キャンプの雰囲気です。日本では常識の、バネ指に PIP 関節にテーピングを実施、喜ばれました。週末は、ほかの難民キャンプへ行ってきました。



## 11月30日

金曜日は、イスラム社会では休息日になります。ヨルダン溪谷の巡回診療所の訪問に行きましたが、あいにくお休みでした。しかし、その途中に立ち寄った遊牧民のベドウインの集落によると、決して豊かとはいえない、パレスチナの非惨な生活実態と触れあいました。占領されているパレスチナの中でもさらに底辺に追いやられている人々・・・、重い気持ちになりました。



## 12月1日

今日は、入植地のまん中で活動している tent of nation farm を訪問、責任者のラシッド氏のレクチャーに感動しました。欧州からの若者を含めて、パレスチナの独立=自立をかたってくれました。次回は、ここで、外傷の講義を約束しました。エルサレムへの帰りは、厳重な検問所が待っていました。



## 12月5日

昼食の時、談笑。私の右がアフマド先生、左がサリム先生です。共に明るくヒューマンな DR です。

難民キャンプ診療所の前に、女子小中学校があります。私達が仕事帰りの時、下校時間に会うことがあります。近寄って来て、可愛い笑顔を見ると疲れが吹っ飛びます。この子供達のためにも---

パレスチナの将来を明るくしたいものです。

本日の難民キャンプ内の往診（在宅医療）は、5 + 1 件でした。香中には、絨毯の上に座りっきりの老女（年齢は不詳？）がいました。清水PTとともに、褥そうの有無も調べ、できるだけ自宅で可能な運動療法を家族にお願いしました。下肢の関節拘宿し、せっかくある車いすも不使用でした。残念！！しかし、パレスチナの家族の考え方をもっと理解しなければならぬことも感じました。幸い、糖尿病性足部合併症はありませんでした。



（明日、クリニックへ集めるそうです

写真は次ページに）「+1」は、知り

合いの家へ立ち寄ったものです。大家族でしたが良く聞くと妻が3人いる「一夫多妻」の家族でした。



イスラム世界の理解は、まだまだこれからです！！

### 12月6日

本日は、朝から外来患者さんを20人ぐらい診察。その後、国連のUNマークのついた車で往診・在宅を継続。出発前に、アフマド所長が激励の笑顔をお届けしてくれました。同行する看護師さんやリハビリ技師さんの明るいこと……。アフマド先生とサリム先生の人柄と心が通い合うチームを作っているのでしょうか。楽しく、明るい仕事が続きます。参考になります！！



### 12月8日

今日は、金曜日で安息日です。この機会に地域診断としてジェリコの街を散策。あちこちにジェリコが歴史上現れてから、1万年経過しているモニュメントがあります。しかし、占領下であることには変わりなく、人々の暮らしと生活環境は、荒れているまま。衛生状態も良いとは言えません。さあ、明日は、パレスチナ人も嫌がる(笑) ショウファット難民キャンプの無料診療に出かけます。



### 12月9日

今日はショウファット難民キャンプで2回目の無料診療。イスラエルの入植地と分離壁に囲まれた陸の孤島のような感じでした。写真は、イスラエルの検問所をバスの中から撮ったものです。40人の診療が済むと外は真っ暗。夜のショウファットを見ながら帰途に。占領下で貧困状態に追い込まれた実態を垣間見た思いです。



### 12月10日

写真に写っているのは我がチームの清水 PT. そのとなりにいる二人がいつも診療所でアラビア語=英語を翻訳しながら一緒に仕事している理学療法士と看護師さんです。大変ありがたい仕事仲間です。いつも日本へ



行きたいといひます。いつかは団で招待したいものですね。

### 12月11日

本日のトピックです。回りがイスラエルによる入植と分離壁に囲まれた陸の孤島、パレスチナ人も嫌がるショウファット難民キャンプの無料診療に2回行き、キャンプ内外100人超えの患者さんを診ました。今日は、チームの皆に感謝状。当たり前のことをしてただけなのですが----。しかし、住民皆さんから気持ちとして有り難く受け取りました。中に立っているのが慈善事業協会代表サリム先生です。次回の来訪を約束して---関わりたい難民キャンプのひとつでした。



### 12月14日

本日は、金曜日です。後発隊として到着した真崎先生とともに、ビリン村の非暴力国際平和デモに参加。いつもご一緒になるジェルサレム在住の精神科の先生と再会しました。ご高齢?なのでいつも心配なのですが、意気軒昂です。前々回のデモのときは、催涙ガスの中で、呼吸困難になっていたのを支えて助けて来たを思い出しました。しかし、このような「信念の医師」がいることも事実です。人生の先輩ながら励まされました!!!



約束していた、ビリン「車いすのラニ」さんの右大腿後面の褥そうに対して、真崎先生持参の治療材料で「湿潤療法」を施行。幸い、傷も浅くて、ご家族のケアが行き届いているので、1カ月で治癒可能と判断しました。ラニさん本人と奥さまの安心した笑顔が忘れられません。来年来訪時にも必ず経過観察を約束して、「金曜日非暴力国際デモ」へ出発いたしました。ラニさんがんばれ!!!とエールを送りながら.....。



今日は、濃厚な一日で、パレスチナ自治政府が所在するラマラによりました。「奉仕団」が、ジェリコ派遣にあたり、大変お世話になったラジャさんから夕食の招待がありました。食事の美味しさはもとより、ご家族の温かいもてなしを受けました。知的なご主人の温かさ、ラジャさんとやさしくて聡明な三姉妹.....皆が協力し合うパレ



スチナのご家族の素晴らしさを堪能させてもらいました。ラジャさん、本当にありがとうございます。心から感謝です！！！！！！

### 12月15日

今日は、3回目のショウファット難民キャンプへ出かけました。入口にあるイスラエル軍の検問所と、兵士がバスに乗り込んできてパスポートを点検するという嫌らしさ……。

同行者が「こんなことがない日本はいいね」

と言っていました、日本は、別な意味で命運がかかっています。

もうひと頑張りしたいと思います！！

写真は、いつ見ても嫌な「ショウファット検問所」です。



### 12月16日

今日は、パレスチナ第一のナジャハ大学（学生数 2 万人）、その大学と大学病院（1 月開設？）を見学させていただきました。その後、ナブルスのバラタ難民キャンプへ出かけました。1k m<sup>2</sup>に 25 万人 = 100 m 四方（小中学校の一つぐらいの面積か？）に 2 万 5 千人の難民が暮らす、パレスチナで一番人口密度の高い地区です。下水道も十分整備されず、衛生環境は良くありません。2 日前の夜にはイスラエル軍兵士が侵入して来て、不当逮捕（連れ去り）事件が起きていたところです。難民の力強さに支えられているとはいえ、やはり軍事支配の害悪がここでも顕著に見られました。



## チェルノブイリ、福島、原発労働者

2012年10月25日札幌

松崎道幸

(資料)

チェルノブイリ原発の事故より  
2年の歳月がながれた。  
これから何が起るの、おかあさん……



[ファイル請求先↓](#)

[matsuzak@maple.ocn.ne.jp](mailto:matsuzak@maple.ocn.ne.jp)

福島の甲状腺異常はチェルノブイリを越えているようだ

保有率	チェルノブイリ	福島
のう胞(5mm以上)	0.5%(10年後)	2.5%(1年後)
結節(5mm以上)	0.5%(10年後)	0.5%(1年後)

### チェルノブイリ

- 放射線被ばくが多いほどのう胞が多くなる可能性あり
- 甲状腺ガンの発生率は、5ミリ以上ののう胞保有率の10分の1というデータあり

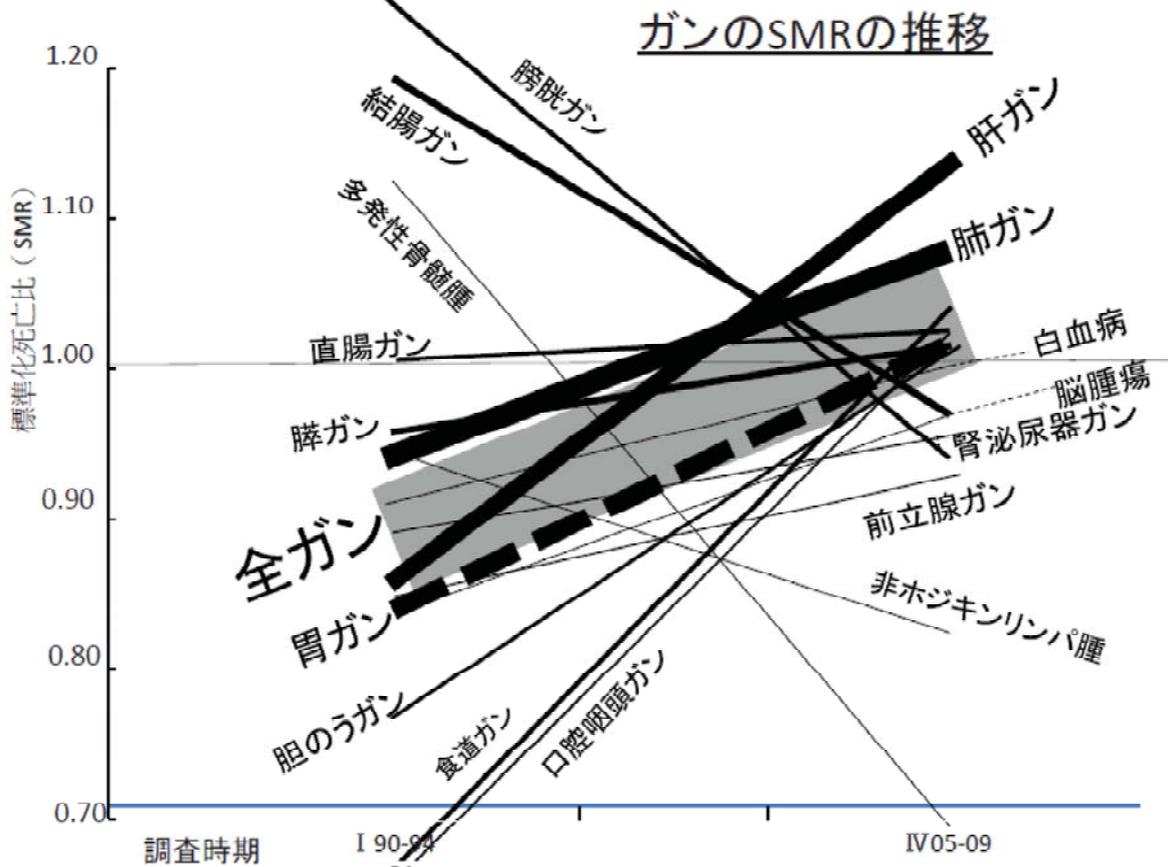
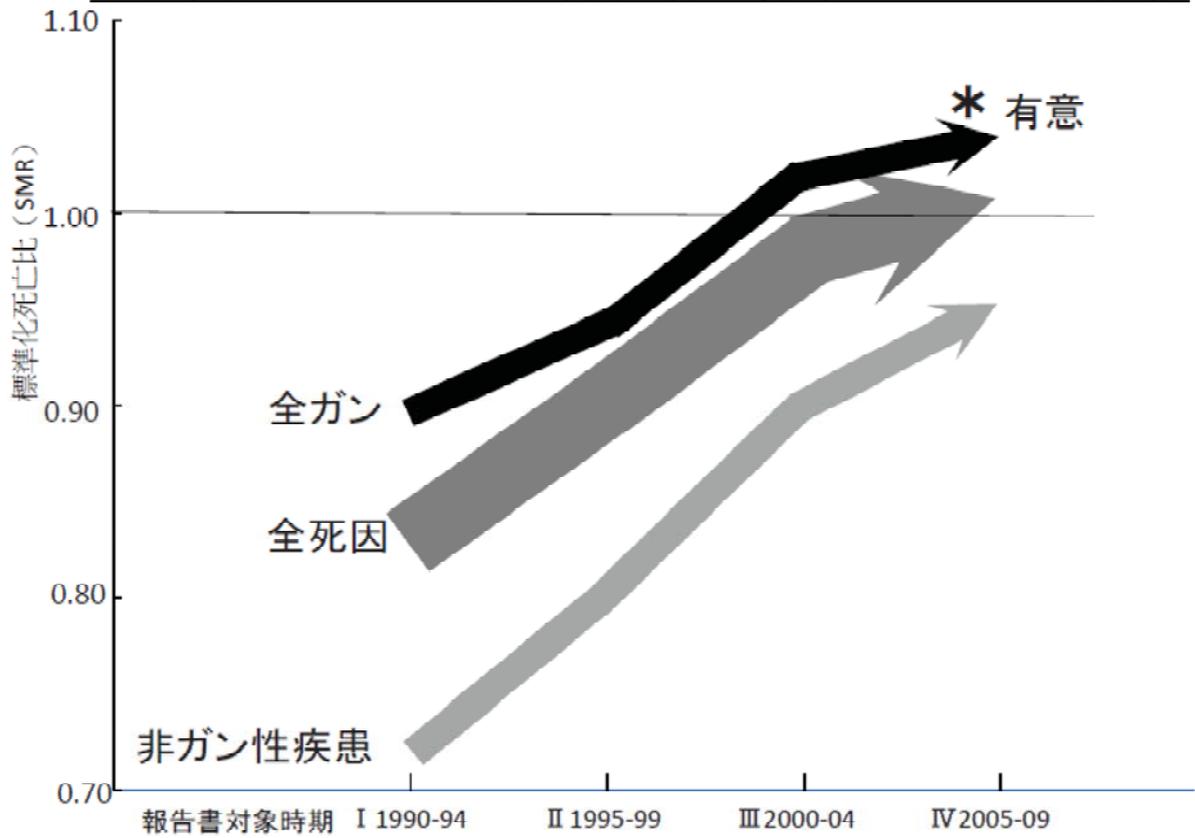
それまでの常識では考えられない低線量被曝で  
次世代に障害が起きる

	従来の「閾値」	チェルノブイリ
流産	100mSv以上	数mSvで有意に増加
先天性心臓病	100～200mSv	10mSvでも有意に増加
ダウン症	100～200mSv	5mSv以下でも増加
悪性腫瘍	50mSv以上	1～2mSvの体内被曝で白血病増加

10 mSvの被曝で  
ガンが有意に増加することが証明された

日本原発労働者	10mSvでガンが3%有意に増加
医療被曝(心臓病時CT)	10mSvでガンが3%有意に増加
医療被曝(乳ガン検査)	2～17mSvで乳ガンが1.6～3.8 倍増
チェルノブイリ事故後の スウェーデン	20mSvでガンが11%有意に増 加
チェルノブイリ事故後の ゴメリ(ベラルーシ)	11mSvで肺ガンが14%増加

# 一般国民と比べた原発労働者の標準化死亡比の推移





平成24年3月21日

継続して実測している地点における平成23年3月11日から  
平成24年3月11日までの積算線量の推計値の公表について

福島中通(福島市・郡山市)に住む方は  
311以後、  
すでに15ミリシーベルト以上被ばくしている

10mSvでガン死が3%高まることの意味

10mSvの被ばく(一回でも累積でも)でガン死の  
リスクが3%高まる



今の日本では男性の35%がガン死、それに1%  
上積み



100人から1人のガンによる超過死亡



10万人から1000人の超過死亡  
(100人に1人)

100mSvなら10万人当り1万人超過ガン死

# 今、何が必要か

年間被ばくを1mSv以下に減らすために、  
あらゆる対策を講ずる

- 移住・疎開
- 汚染のない物を食べる
- 被害の記録
- つながる・まなぶ・きたえる

2012年10月25日 シンポジウム「放射能による福島の子どもたちの健康被害を考える」での講演資料です。

## 年会費納入についてのお願い

当会は、12月が年度末となっています。

今年度分の年会費が未納となっている方へ、請求書と振込用紙を同封させていただきました。

納入についてご協力のほどよろしく願いいたします。

(行き違いがありましたら、ご容赦下さい)

★ 当会ホームページで、活動の様子や講演資料などを公開  
しております。 <http://iryo9jyo.dosanko.org/>

医療九条の会・北海道

事務局 札幌市北区北14西3 1-12

FAX (011)716-3927

Mail [iryo@dominiren.gr.jp](mailto:iryo@dominiren.gr.jp)